

江原北小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 確かな学力の定着を図る授業実践
 - 対話的な学びの中で考え、主体的に行動する児童の育成
- 教育目標：人権教育を尊重し、豊かな心と確かな学力を身につけ、様々な課題に果敢に挑戦し、地域を輝かせる児童の育成

学力向上検討委員会構成

- | | | | |
|---------|----|----|------------|
| 学力向上推進員 | 委員 | 校長 | 佐瀧 真弓 (総括) |
| 教諭 | | 教諭 | 小笠 博之 |
| 小笠 博之 | | | |

校長

佐瀧 真弓

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

学校長の授業参観や機会を捉えての実践交流等を通して、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎基本となる計算の知識や漢字の習得に取り組もうとする意欲が向上している。 ●計算の正確さや速さ、漢字の読み書きが十分ではない。 ●表現の技法や工夫が少ない。 ●学習した内容や基礎的語句が積極的に生活に生かされていない現状がある。	・「読み・書き・計算」が身につけており、基礎基本となる知識を使うことができる。 ・日記・作文に既習漢字や語句を積極的に使うことができる。 ・既習の内容を生活の場面において活用することができる。	・すすすくタイムに、児童一人一人が自分自身の目標を掲げ、活動に取り組むとともに、月1回の確認テストを実施する。 ・日記指導の際に使用した漢字の数を数えるなど、日常的に既習漢字を使うことが意識できるよう指導する。 ・繰り返し取り組めるように、小テストの出題の仕方を工夫する。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の意見をみんなの前で進んで発表する態度が育ちつつある。 ○日記を毎日書くことにより、書くことに対する抵抗は少なくなっている。 ●理由や根拠を説明する力が不足している。 ●筋道を立て、見通しをもって意見を述べるのが十分ではない。	・各授業や話し合いの場において、相手の意見をしっかり聞き、自分の意見を相手に伝えることができる。 ・新聞記事や本を読み、自分の考えや感想を発表することができる。 ・適切な言語活動により、自分の考えや思いをまとめ、分かりやすく表現することができる。	・全校朝会等でテーマを設けたり、自分の思いをそのまま言葉にしたりするなど、継続して発表の場を設定する。 ・阿波っ子タイムズの記事を紹介するなどの活動に取り組む、感想や気づいた点を共有できるようにする。また発達段階に応じた新聞記事やあわスタの活用を提案する。 ・目的にあった資料を選択し、その内容を読み取れるよう、教科横断的に取り組んでいく。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業には、落ち着いて取り組んでいる。 ○家庭学習には、目標を立てて取り組もうとしている。 ○毎日の読書タイム(15分)は集中して読む習慣が定着してきた。 ●読書の内容や読書後の感想等に課題が残る。 ●宿題以外の学習に取り組む意欲が低い。	・学期ごとにめあてを立て、自分から学習に取り組むことができる。 ・自分から目的をもって読書をし、読書によって感性を豊かにすることができる。 ・あいさつ、早寝早起き等の基本的な生活習慣を身につけるとともに、進んで家庭学習をすることができる。	・一時間の授業の中で、めあてを確認して始まり、振り返りをして終わる授業の流れを定着させる。 ・外部講師の活用に取り組む。 ・家庭学習の友の毎月の計画に、音読や読書を位置づける。 ・さらに高い目標をもって、漢字・算数検定に取り組む。			

令和6年度 学力向上ロードマップ

